

「ペルセウス座流星群 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

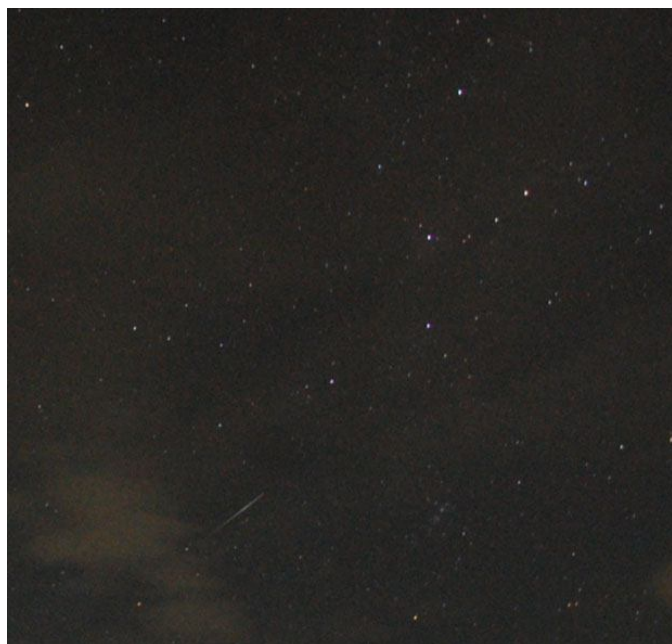
田中 千尋 Chihiro Tanaka

しし座流星群、ふたご座流星群などの流星群は、輻射点(ふくしゃてん)と呼ばれる、天球上の一点から、放射状に流星が飛ぶ。その輻射点のある星座を、流星群の名称としている。ペルセウス座流星群の場合も、ペルセウス座の一角に輻射点が存在する。



天体写真は、明るいレンズのほうが露出時間が少なく済み、更に暗い流星でもよく写る。上の写真は、標準レンズ ($f=1.4$) で撮影した、ペルセウス座流星群の流星の一つである (2018 年 8 月 13 日、北軽井沢)。左下に斜めに並んだ 2 つの光芒は、「ペルセウス座二重星団」で、輻射点はこの近くにある。右上に写っているのが流星で、左下から右上に向かって飛んでいる。実はこの流星は肉眼では見えなかった。標準レンズで撮ると、肉眼では見えない暗い流星まで写るのだ。恒星も同じで、この写真には 9 等星ぐらいの暗い星まで鮮明に写っている。

暗い流星まで撮るには、明るい標準レンズが有利だが、「写る範囲が狭い」という、決定的な欠点がある。流星群は輻射点を中心に飛ぶが、必ずしも輻射点近くだけに飛ぶわけではない。この晩も、遠くはくちょう座やさそり座の近くに飛んだ流星も多かった。



やはり広角レンズが有利だ。上の写真は広角レンズ (15mm) で撮ったものをトリミングした画像だ。標準レンズでペルセウス座を狙っていても、画角からはずれていた場所だ。



こちらは、かなり離れた北斗七星の下を、右(輻射点方向)から左に飛んだ明るい流星である。